

| | | | | | | | |
|----------------|--|------------------|-------------|-------------|---------------------------|-------------|---|
| 課 題 | 4 2 生態系に配慮した森林管理施業技術の開発 | | | 開発期間 | 平成14年度～平成23年度 (18年度終了) | | |
| 開発箇所 | 古谷国有林527林班 | 担当部署 森林技術センター | 共 同 研究機関 | 技術開発 目 標 | 2 (1) | 特定区域 内 外 | ○ |
| 開発目的 (数値目標) | 森林に対し高度な公益的機能の発揮が求められていることから、樹種、齢級の多様な森林配置を目指す。針葉樹単層林(スギ・ヒノキ)において、間伐を行うことにより広葉樹の導入を図り、種の多様性に富んだ針広混交林に誘導する。 | | | | | | |
| 実施経過 | <p>試験地設定後の実施経過</p> <p>① 14年度 試験地設定</p> <p>② 間伐実行 14年度 2.95ha 15年度 1.65ha 15年度 1.65ha</p> <p>③ 16～17年度 林内整備(雪害木処理)</p> <p>自然環境調査(調査成果と目的)</p> <p>① H15.9 植生調査 倉敷市立自然史博物館 学芸員 [目的]光環境により植生の変化を調査。</p> <p>② H16.6 昆虫類調査 東京環境工科専門学校インターン [目的]昆虫は発生時期、活動時期、生息利用空間などにおいて、多様性が高いことから、総合的な環境指標となる。</p> <p>③ H16.6 クモ類生息調査 同上学生 [目的]昆虫等を食べる捕食者であると同時に他の生物に食べられる被食者であることから多様性に富み、環境の良し悪しを測る物差し(環境指標)となる。</p> <p>④ H16.6 土壌動物生息調査(堆積土壌動物)同上学生 [目的]生態系の中に於いては「分解者」としての重要な役割。環境の違いによって生息する種類が大きく異なるため、環境指標として優れている。</p> <p>⑤ H16.8 水生生物生息調査 同上学生 [目的]水生生物の生息には「繁殖・生育のための環境」「越冬環境」の2点が重要な大きな位置を占める。水生生物の生息調査を行うことにより、水環境の保全状況について評価する。</p> | | | | | | |
| 開発成果等 | <p>自然環境に関する基礎データの把握のため、動植物の生息環境調査を実施した結果、①植生調査：342種確認 ②昆虫類調査：43科確認 ③クモ類調査：12種確認 ④土壌動物生息調査：7種確認 ⑤水生生物生息調査：魚類を含め9種確認。</p> <p>平成18年度の技術開発委員会において、本課題は同一箇所で実行中の他の課題と調査目的等が重複していることから、課題を集約化するよう提言を受け終了するものである。なお、本課題で得たデータ等は他の課題で活用することとする。</p> | | | | | | |